

令和6年度 事業報告（案）

施設名 カーサマリモ

1 総 括

共同生活援助は、入院により7月から約1ヶ月間の空床、2月には退所による空床が1床ありました。新規利用者の受け入れを行うため関係各所との情報共有、調整等行いましたが受け入れには至りませんでした。

短期入所では、7月にミドルステイ、1月からロングステイの受け入れを行いましたが、継続的なご利用は1件に止まっております。新規利用者登録のため法人内事業所との連携強化及び実施機関へ毎月広報活動を行ってきましたが新規利用者の登録へは至りませんでした。新規利用者登録のため今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

事業運営では、前年度末に非常勤職員の退職（学生の卒業に伴うもの）が重なりましたが、5月・7月・10月・11月で派遣職員2名（10月で直接雇用へ転換）、非常勤パート3名、正規職員1名、の採用を行い職員体制の維持に取り組みました。その他、月1回運営検討会、職員会議を開催し、利用者支援及び運営上の課題を共有し、タイムリーに課題に対応するよう取組みました。また、運営検討会では事業計画に基づき実施状況の確認、今後の予定を確認し事業計画に基づく運営を意識的に行いました。その結果、実施時期に前後や遅れはあるものの事業計画に掲げた行事、研修の実施ができます。更に事業運営についても正規職員の業務整理などの取り組みを職員の意向を確認しながら実践し、チーム力向上に取組めました。次年度でも継続し、当事者主体の運営を実践する上でも更なる職員間で意見が出し合える、指摘し合える環境をつくっていきたいと考えています。

1 重点目標の取り組みと今後の課題

1) 地域移行への取り組み強化

【目標】

地域移行への取り組みの基盤を整備し、地域移行支援を行います。

【取り組み状況と結果】

・地域移行ニーズの把握について

法人内事業所の入所施設（特別養護老人ホームを除く）のご利用者の地域移行ニーズを把握しました。結果は男性が18名（清瀬療護園1名、清瀬喜望園3名、カーサマリモ3名、くるめ園11名）女性が6名（くるめ園6名）であり、その中で共同生活援助を希望している方は10名でした。

・関係事業所との連携基盤づくりについて

清瀬療護園相談支援事業所と地域移行プランの共有を図りカーサマリモ内での取り組み方法の協議を行い事業所内での共有を図りました。隣市等の関係事業所との連携につきましては未だ少ない状況となっております。

・地域移行支援について

候補者1名対応中となっております。

【今後の課題】

- ・地域移行ニーズの把握について

新たなご利用者の地域移行ニーズの把握やニーズ変更等の把握が出来るよう早急に法人内事業所と連携を図っていきます。

- ・関係事業所との連携基盤づくりについて

カーサマリモの役割の一つである地域移行への取り組みを推進する必要がありますが、現在、地域移行の際に連携を図っている関係事業所が多くないので、近隣市等の関係事業所への広報活動を行います。

- ・地域移行支援について

引き続きカーサマリモご利用者の地域移行ニーズに応じて関係機関と連携を図り取り組んでいきます。

2) 安定的な運営基盤の確立

【目標】

- ・共同生活援助は 95%、短期入所は 70%の稼働率を達成します。
- ・安定した職員体制作りを行います。

【取り組み状況と結果】

- ・稼働率について

稼働実績 共同生活援助 13 床 短期入所 1 床

令和 6 年度の稼働率実績は共同生活援助 97.1%、短期入所 36.1% となっております。令和 5 年度の稼働実績は共同生活援助 93.1%、短期入所 27.2% となっており、共同生活援助は目標（共同生活援助 95%）及び前年対比で上回りました。短期入所は前年対比では上回っておりますが目標（短期入所 70%）を大幅に下回っております。

短期入所の稼働率が下回っている要因として、新規利用者獲得のため法人内の他事業所との連携強化及び実施機関への広報活動を行ってきましたが新規利用者の登録へは至らなかったことが挙げられます。

- ・安定した職員体制作りについて

令和 6 年度は、法人内事業所との連携を図りつつ様々な求人媒体を活用し積極的に職員体制の維持に取り組み常勤職員 1 名の雇用を行っております。非常勤職員は令和 5 年度末に退職（学生の卒業に伴うもの）が重なりましたが、5 月・7 月・10 月で派遣職員 2 名（10 月に直接雇用へ転換）、非常勤パート 3 名の雇用を行いました。

【今後の課題】

- ・稼働率について

短期入所については現状の顧客が 1 名のため引き続き広報活動を行い新規利用者登録への取り組みを行い稼働率の向上に取組みます。

- ・安定した職員体制作りについて

引き続き法人内事業所との連携を図りつつ様々な求人媒体を活用し積極的に職員体制の維持に取り組んでまいります。

2. 稼働率

事業種別	定員	稼働率目標	稼働率	分析と下半期に向けて
共同生活援助	13	95%	97.1%	在宅診療と連携しご利用者の健康管理を行う
短期入所	1	70%	31.6%	重点目標 2) の取り組みと今後の課題参照

3. 重大事故

事故の種類	件数	内容とその後の対応
服薬関係	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・5/2 食堂の清掃中に被事故者が利用しているソファーの下からいつの物か分からぬ錠剤が発見された。 ・11/9 ご本人と就寝薬の氏名、日付、用法の確認をし、服薬し飲み込んだ後に錠剤が1錠増えていることに気付き、処方箋を確認すると就寝薬は1錠の処方だった。他の処方された薬袋を確認すると、1錠入っている薬袋と2錠入っている薬袋があった。 ・12/19 外出時に必要な昼食薬を持たせることを失念し怠薬となつた。 ・12/25 職員間での確認、共有漏れによる怠薬。

4. 申出のあった苦情の対応

苦情はありませんでした。

5. 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ（内容）	講師	参加職種	延人員
虐待防止研修会（前期） （内容）虐待防止の基礎（動画視聴研修）	金山 峰之 氏	全職員	10 名
虐待防止研修会（後期） （内容）東京都虐待防止・権利擁護（動画視聴研修）		全職員	10 名
接遇研修 （内容）接遇の原則について（動画視聴研修）	小関 昇平 氏	全職員	10 名
階層別研修 （内容）リーダー、ベテラン、中堅、新人 （動画視聴研修）	小関 昇平 氏 菊池 みほ 氏 福嶋 潤一 氏	全職員	10 名
リフト研修 （内容）リフトに関する理解と操作方法の習得	リフトインストラクター	新人職員	3 名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
接遇研修	清瀬療護園	生活支援員	1名
障害者虐待防止・権利擁護研修	東京都	管理職	1名
グループホーム管理者研修	東京都	管理職	1名
グループホーム従事者基礎研修	東京都	生活支援員	1名
サービス管理責任者基礎研修	東京都	リーダー	2名

6. 虐待防止の取り組み

実施日	取組み	内容
6/30～7/8	虐待防止セルフチェック	全職員を対象に虐待防止セルフチェックを実施し、統計表の共有を図りました。

7. 行事の取り組み

実施日	内容	利用者人数
4/7	バースデイ外食企画	3
5/11	カーサマリモ懇親B B Q大会	10
7/23	バースデイ外食企画	2
8/20	夕涼み花火企画	9
10/19	カーサマリモ懇親B B Q大会	10
11/23	中里クリーン作戦（合同地域福祉委員会）	13
12/24	クリスマス企画	13
2/14	バレンタイン企画	13
3/2	焼き芋企画	10